

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）  
分担研究報告書

研究分担者 小室一成（東京大学医学部附属病院・教授）

特発性心筋症に関する調査研究

研究要旨

本研究では、わが国における小児から成人における心筋症の実態を把握し、研究成果を広く診療へ普及させ心筋症の医療水準と患者のQOLの向上に貢献することを目的とする。心筋症および鑑別が必要な類縁疾患を含む患者の実態・予後を解明し、心筋症診療の向上に資するエビデンスを構築する。分担研究では当院の心筋症を多くふくむ紹介患者の予後予測について検討したところ、カテコラミン依存、血圧低値などのリスク因子が確認された。本結果は心筋症研究のエビデンスの一助となることが期待できる。

A. 研究目的

心筋症患者の予後予測因子の解析、リスク因子の検索を行うため、当院へ心不全加療目的紹介になった重症例を対象に検討を行い、心筋症関連の知見を創出することを目的とする。

B. 研究方法

2015年1月～2018年12月に当院に紹介のあった心筋症を多く占める、重症心不全の患者の予後予測因子について検討を行い、紹介患者の予後予測因子を解析した。

（倫理面への配慮）

本検討は後方視的な検討であり、オプトアウトでの研究の公表を行う。

C. 研究結果

Primary outcomeとして補助人工心臓及び死亡の複合イベントを設定した。検討患者は130施設から紹介の186人が検討された。平均年齢は43歳、平均のejection fractionは22%と、収縮機能障害が強く確認された。中間値583日の経過期間で確認したところ、カテコラミン依存状態、血圧低値、心不全発症からの期間が長期であることがイベントのハイリスクとして確認された。

D. 考察

心筋症は原因が何であれば収縮機能障害が強い場合に難治性になる傾向にあるが、どの段階で補助人工心臓、心臓移植を検討するかという点についてはまだ確立されていない。本結果からはカテコラミン依存、長期の病歴、血圧低値の所見がある場合には補助人工心臓などが必要な確率が高くなると考えられ、そのような先進治療が可能な中心施設に紹介することが適切と考えられる。心筋症患者は若年発症で補助人工心臓や心臓移植などの治療を要する症例も多く、本結果は治療の適正化に寄与するものと期待される。

E. 結論

本研究において、心筋症の患者の予後改善において、カテコラミン依存などより重症度が高い場合には適切なタイミングにて補助人工心臓／心臓移植の対応

が可能な中心的な医療機関への転院が望ましいことが予想された。

F. 健康危険情報

特になし

G. 学会発表

1. 論文発表

1. Narita K, Amiya E, Hatano M, Ishida J, Maki H, Minatsuki S, Tsuji M, Saito A, Bujo C, Ishii S, Kakuda N, Shimbo M, Hosoya Y, Endo M, Kagami Y, Imai H, Itoda Y, Ando M, Shimada S, Kinoshita O, Ono M, Komuro I. Differences in the prognoses of patients referred to an advanced heart failure center from hospitals with different bed volumes. *Sci Rep*;10(1):21071, 2020 Dec 3.
2. Matsui H, Kawai T, Sato Y, Ishida J, Kadowaki H, Akiyama Y, Yamada Y, Nakamura M, Yamada D, Akazawa H, Suzuki M, Komuro I, Kume H. A Fatal Case of Myocarditis Following Myositis Induced by Pembrolizumab Treatment for Metastatic Upper Urinary Tract Urothelial Carcinoma. *Int Heart J*.;61(5):1070-1074, 2020 Sep 29.
3. Yamaguchi T, Sumida TS, Nomura S, Satoh M, Higo T, Ito M, Ko T, Fujita K, Sweet ME, Sanbe A, Yoshimi K, Manabe I, Sasaoka T, Taylor MRG, Toko H, Takimoto E, Naito AT, Komuro I. Cardiac dopamine D1 receptor triggers ventricular arrhythmia in chronic heart failure. *Nat Commun*.;11(1):4364, 2020 Aug 31.

2. 学会発表（発表誌面巻号・ページ・発行年等も記入）

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし